

中国研修異文化交流を終えて

法文学部法経学科 3 回生 曳原 守

今回の研修は、経済学ゼミの一員として、中国の学生とお互いにプレゼンをしたり、工場の見学をしたり、観光などを主に行い、中国の文化に触れ、学ぶことが目的だった。

私がこの中国研修に参加した理由は、中国の文化に触れ、中国の学生と交流することで、今後生きていく上で役に立つのではないかと思ったからだ。

今回日本から出て感じたことは、日本と中国のサービスの違い、学生の意識の違い、だ。空港では、パスポートを調べ、その後返却されるが、返却の際に投げ捨てていたり、ホテルの警備員がずっとスマートフォンで動画をみていたことに驚いた。日本ではあまり見られない行為だろう。

他にも、文化の違いなのか、ほとんどのトイレにドアはあるが、半開きで用を足す人や、鍵をかけていない人が目に付いた。

他にも、反日感情は本当にあるのか、トイレのドアがないのかなど、実際に行かないと分からない部分も知りたいと思っていた。

以下、日程に沿って簡潔に感想を述べる。

初日は、飛行機が遅れ、到着が夜になってしまったため、空港で食事をとったあと、タクシーでホテルに向かった。その際、関先生と案内係の人民大学の学生の方が夜遅くにも関わらず待っていてくださり、とてもありがたく感じた。

空港からホテルに向かうタクシーの中で、人民大学の学生の方が運転手に、我々のことを、「テキサスから来た学生ということにしよう。」と言っていた。タクシーの運転手が反日感情を抱いていたのか、単に用心のためかは不明だが、少なからず、反日感情というのはあるのだなと感じた。ただ、それ以外の場所では、日本人だからと言って差別されるようなことは無く、逆に、商店の人には、日本人＝観光客＝お金持ちという感覚があるようで、客引きに遭い、腕を引っ張られることもあった。商店街は活気があり、京都の狭い商店街のようにごった返していた。

人口世界一なので、すべての場所に人がごった返しているというイメージがあったが、空港はともかく、多くの場所で日本と同じか少し多くらいしか人はいなかった。今回の研修で訪れた場所は観光客向けで、北京でも人が少ない場所だったのかもしれない。

ホテルに到着すると、深夜12時を回っているにも関わらず、人民大学の学生が5名ほど歓迎してくれて、うれしく思った。

二日目から本格的に今回の中国研修が始まった。まず、人民大学で、経済ゼミの学生と通訳を交えながらプレゼンを行うため、人民大学に向かった。人民大学は、島根大学と比べようもないくらい巨大なビル群で、キャンパス内に学生寮、噴水、巨大なグラウンドがあったり、学食だけでなくレストランがあったりと、大学ではなく、一つの街のようだった。

た。グラウンドは中国の軍隊の訓練場にもなっているようで、朝からキャンパス内を行進していて驚いた。

人民大学の学生の報告は、日本と中国の貿易摩擦の話や中国の企業と農村の取り組みなどの内容だった。データのち密さや資料の内容から、時間をかけて作られていることがよくわかった。プレゼン後の質疑応答では、日本の学生よりも積極的に質問する姿勢が見られ、その意識の高さに驚いた。その姿勢がとても刺激となった気がする。

報告会の後、夕食会を開いて頂き、学生同士で会話する機会が設けられた。皆しゃべりやすく、日本語を操れる人も多くいた。日本に留学する学生が多く、選抜された学生だということで、頭ばかりよくて人当たりが悪いかと思っていたが、そんなことは無く、日本のアニメやゲームやドラマなどについて詳しい人もいて、その話で盛り上がりもした。特に驚いたのは、ある男子学生が、当時日本で放送しているドラマを、ほぼリアルタイムで見ていると知っていたことだ。さらに、内容は、アクションなどではなく、不倫を扱うもので、日本人の繊細な感情が表に出る作品だったのだが、それを見てとても楽しんでいるということを知り、感性は日本人も中国人も変わらないのだなと感じた。他にも、彼女がいる、いないの話をしたりと、人民大学での夕食は、とても楽しかった。食事については、日本の味付けとは異なっており、甘い味付けや辛い味付けが多かった気がするが、どこの食事もおいしかった。北京ダックは、身でなく皮を主に食べ、それをきゅうりなどと一緒に餃子の皮のようなもので巻いて食べるということに驚いたが、とてもおいしかった。

三日目に、ビール工場と自動車工場を見学した。正直に言うと、英語でしゃべられていたため、細かい内容は聞き取れなかったが、自動車工場では、初めて車が流れ作業で造られていく工程を見ることができて、いい経験になった。ビール工場では、実際に出来立てのビールを飲むことができた。日本のものより味が薄くて飲みやすかった。

最終日に、万里の長城と天安門広場を観光した。どちらも多くの観光客でごった返していた。万里の長城は、かなり急な階段で、段差の高さもバラバラだったため、足腰にきた。一番高い場所までは時間の都合で上ることができなかったが、景色は見渡す限り青々とした山脈が広がり、絶景だった。

上っている途中で、外国人観光客とともに写真を撮ったりと、言葉は通じなくてもコミュニケーションを図ることはできると学んだ。

今回中国の文化に触れたことで、文化の違いを学んだが、国は違っても、感じ方や考え方は、日本でも世界でもそれほど変わらないのだと分かった。

今までは、あまり外国の人と会話できなかったが、これからは機会があれば英語を駆使し、話しかけていきたいと思う。